

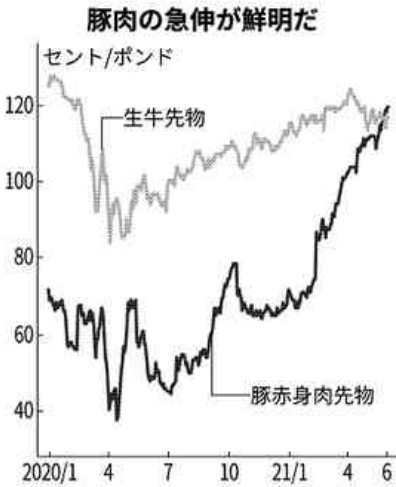
米国産の豚肉価格急騰

「ポークシヨック」先物、1年で3倍

米国で豚肉の先物価格が急騰している。現在の相場は昨年の底値の3倍を超える。新型コロナウイルス禍で養豚数が減っていたところに、コロナ禍からの消費回復で品薄になったためだ。穀物高で飼料価格が上がった影響も続くほか、投機マネーの流入も上昇に拍車をかけている。日本向けの価格にも波及してきた。

投機マネーも流入

米シカゴ・マーカントイル取引所(CME)の豚赤身肉先物(期近)は1ポンド120ポンド前後と6年10カ月ぶりの高値。2020年4月の底値から3倍を超える。同じCMEの上場する生牛先物の同期間の上昇率(22%)より食肉加工工場が相次ぎ閉鎖。一部生産者が出荷時期が合わない豚の殺処分では1970年代の石油ショックになぞらえ「ポークシヨック」と呼ぶ声も出始めた。需給の引き締めまりが主因だ。20年春に米国内でコロナ感染が急拡大し、豚赤身肉先物(期近)は1ポンド120ポンド前後と6年10カ月ぶりの高値。2020年4月の底値から3



豚肉の急伸が鮮明だ

務省(USDA)によると21年3月時点の米国内の養豚数は約7480万頭と前年の同じ時点を2%下回る。一方、米バイデン政権による給付金の支給で家庭で豚肉需要が旺盛になった。フクチン接種の拡大で外食店の営業が正常化に向かい、店の調達も増えているという。輸出も活発だ。USD

Aがまとめた3月の輸出量は33万1000トと前年同月比4%増えた。米国食肉輸出連合会(USMEF)によると月間過去最高を更新した。最大消費国の中国やフィリピンの需要がけん引している。

飼料に使う大豆ミール(大豆かす)の高騰も豚肉相場を押し上げている。国際指標となるシカゴ先物(期近)は1月に1米ドル(約910キ)471ポンドと6年7カ月ぶり高値をつけた。中国や米国の需要と南米など産地の天候不順を理由に、足元でも390ポンド前後で推移する。

「シカゴの豚赤身肉の先物取引は養豚会社のヘッジ(リスク回避)や投資家の投機目的で利用されている」と指摘する。食肉大手JBSの加工場がサイバー攻撃を受けて操業を一時停止したことも投機筋の買いを誘ったと見方がある。米国では小売価格も上昇している。4月の消費者物価指数における豚肉は前年同月比4.9%高。指数全体が4.2%高と約12年半ぶりの伸びを示す一因となった。

米国の相場高は日本にも波及してきた。米産の豚ロース(冷蔵品)の国内卸値は1ポンド600〜620円と前月に比べ1.6%上昇した。米産は日本の輸入豚肉の3割弱を占め、船便で3〜4週で日本に運ばれる。冷蔵品が中心で、主にスーパーの精肉売り場に並ぶ。中国の買いなどを背景に輸入食肉全般に品薄感や相場高が広がるなか、米産豚肉の値上がり圧力も一段と強まる可能性がある。

許諾番号30082997 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。